

どのように目標を定めて、その目標に対してどのように取り組んで行くべきか ―就職活動を通して

私は2008年の8月、大学の夏季休暇が開始した時期から就職活動を開始した。初めは東京ビッグサイトで行われた合同会社説明会に参加し、多くの分野の企業を見学した。電子部品、家電、プラント、計測機器、自動車などの企業を見たが、最終的に私が最も惹かれたのは医療機器メーカーであった。大学の研究室で医療系の研究を通して、自分の作ったモノで直接的に人を救えるということに非常に“やりがい”を感じていたからだ。

アメリカから広まった世界同時不況が起こっても、その医療機器メーカーに入りたいという気持ちはまったく変わらなかった。絶対に医療機器開発に携わりたいという野心に燃えていた。興味を持った企業があれば夜行バスで埼玉から大阪まで行き、研究室のOBの方に医療機器メーカーの人がいると聞けばすぐさま駆けつけた。そんな風に必死で就職活動をこなし、2009年3月にとある医療機器メーカーの採用試験に応募した。結果、“不採用”の連絡を頂き、見事に砕け散った。

応募した企業から連絡を頂いた後、なぜ落ちてしまったのか、ひたすら反省ばかりしていた。コミュニケーション能力が足りなかったのか、筆記試験の勉強不足だったのか、OBの人に気に入られていなかったのか。空は晴れていても頭の中には常に暗雲がちこめていた。巨大な無気力感に襲われながらも、必死に次に受験する企業を検討していた。この不況の中、応募する時期が遅くなるほど受験できる企業が少なくなるからだ。ただ、もともと応募する企業を複数検討していたので、それほど時間がかからず次の企業を決定した。その企業を決定したとき、私はあることに気がついて驚愕とした。それは自分の中の“医療機器メーカーに入りたい”という目標がなくなっていたことだ。不採用だったから嫌になった、という投げやりな気持ちではなく、自分にはもっと色々なことができるのではないか、という気持ちの広がりを感じたのだ。

そこで私は、自分の目標とはなんだったのか、ということ振り返った。私が医療機器メーカーに入りたかったのは、“やりがい”が一番感じられるからだった。やりがいを感じるとは、“自己実現”するということ。私の場合、目立たなくても人を支えているという手ごたえを得ることが自己実現であった。つまり自分が最も大切だったのは“自己実現”であり、そのための“手段”の一つの中に医療機器メーカーという存在があったのだ。不採用を頂いたときに私は、医療機器メーカー以外にも“手段”は沢山ある、ということに気づけたから、色々な進路への選択が広がったのだ。結局私は、もともと希望していた医療機器と、縁の下の力持ちである計測機器の双方に事業を展開している会社に入社することになり、幸運にも最も自分の希望する“手段”に出会えた。

私はこの就職活動を通し、目標と手段をはっきり分けることの大切さを学んだ。それは手段である「医療機器メーカーに入る」ことを目標と勘違いすることで、驚くほど自分の視野を狭めてしまうからだ。そして一点にしか注目していないから、その周りに広大な世界が広がっていることにも気づかない。そんなときは初心に振り返り、自分の本当に目指していた世界を見失わないことが大切であると考えた。